

公開シンポジウム

「知っていること」と「使えること」をつなぐ

日時 12月26日(土) 13:00~17:30

場所 日本女子大学目白キャンパス 低層棟 206 教室

趣旨

ある表現が「使える」ようになるには、その表現自体についての的確な知識が必要である。しかし、文法知識を持っているだけでは学習者はその表現を使えるようになるとは言えない。学ぶ時にはその表現の用いられる具体的な場面や発話意図といった「文脈」を意識する必要がある。

シンポジウムでは、文法知識と習得という観点から、連体修飾節内のテンスと「ねじれ文」などの名詞述語文について発表する。また、文脈化という観点から、初級教科書の文型提示の仕方の分析と教師研修における文法授業の役割についての発表を行う。

発表

連体修飾節内の「ル」と「テイル」について

—「たばこをすっている人もすっている権利があります」を例に—

江田すみれ (日本女子大学)

名詞述語文「N1はN2だ」の習得調査 —ねじれ文の誤用を中心に—

砂川有里子 (筑波大学・国立国語研究所)

「文脈化」という視点 —初級教科書の再検討—

太田陽子 (一橋大学)

日本語教師研修における文法授業の役割

—課題遂行を重視した授業デザインを目指して—

清水まさ子、山本実佳、木田真理 (国際交流基金日本語国際センター)

司会：堀 恵子 (筑波大学・東洋大学)

申し込み URL

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/7bbd3616394379>

日本女子大学目白キャンパスへのアクセス

○JR 山手線 目白駅から徒歩約 15 分またはバス約 5 分

[バス]

都営バス (学 05) 日本女子大学行 (直行)「日本女子大前」

都営バス (白 61) 新宿駅西口行「日本女子大前」

○東京メトロ副都心線 雑司が谷駅から徒歩約 8 分 (3 番出口)

○東京メトロ有楽町線 護国寺駅から徒歩約 10 分 (4 番出口)

